

在日中国人留学生のソーシャルメディア利用を 通じた異文化適応に関する研究

—LINE と Wechat の使い分けを通じて—

TANG Ling

ソーシャルメディアの発達により、コミュニケーションの活発化、親密化が促される現在、日本人はもちろん、越境する外国人、あるいは留学生もそれを利用し、母国の人間関係を維持しながら、ホスト社会の人びとと新たな人間関係を構築している。しかし中国では、国際的に普及しているソーシャルメディアは政府のインターネット検閲によって利用が不可能である。ゆえに中国人留学生は来日するまで、中国独自のインターネットサービスをもっぱら利用してきた。

本研究では、日本と異なるソーシャルネットワーキングの習慣を持つ中国人留学生に焦点を当て、彼らのソーシャルメディアの利用実態を把握し、その実態から浮かび上がる異文化適応の問題を明らかにすることを目的とする。具体的には、在日中国人留学生を取り巻くメディア環境について考察したうえで、8 名に対して半構造化インタビュー調査を行った。その結果、中国人留学生は、相手、用件という二つの要因によって Wechat と LINE を使い分けていることがわかった。そして、Wechat にはない LINE の既読機能に対して、彼(彼女)らのほとんどが否定的な感情を抱き、「煩わしさ」、「義務感」、「疲労感」を感じていることがわかった。また、中国国内ではインターネットの利用に対して政府による規制があるため、中国人留学生が一時帰国時に VPN といった技術を利用しない限り、日本との連絡が切断されるという問題も明らかになった。さらに、かつてエスニック・メディアが担っていた機能を、ソーシャルメディアの新たな役割として設計していくことの意義を示し、越境する者が暮らしやすい社会の構築のために有用な知見を提供できたと考えられる。

一方、日本人との友人形成あるいは異文化適応を妨げる要因を明らかにした。主に二つの問題がある。一つ目は、友人ネットワークの希薄さである。インタビューで彼(彼女)らが持っている

日本人の友だちが実には少ないことがわかった。その上、留学生同士も皆、勉強やアルバイトで自分のことだけで精一杯になり、友だちの助けが必要なときに援助を得られない可能性が高い。それにより、他者に対する信頼感や満足感が低くなる恐れがある。二つ目は、日本と中国における友人づくりの相違である。具体的にいうと、「文化的差異」、「言葉の問題」、「共通体験の少なさ」が挙げられる。それにより、友人形成に「距離感」や「時間差」という違和感を抱いてしまう場面がしばしば語られた。

このような中国人留学生のネットワークの特徴を理解することは、日本に留学する外国人に基づく人的ネットワークづくりを効率的に展開することに役立つと考えられる。